

特集

団結から連携

市民の生命と財産を守るため、日夜を問わず万が一の災害などに備えて、地道に訓練している笠間市消防と笠間市消防団。

どんな人が、どんな思いで任務にあたっているのか。火災や風水害等の災害時には、防ぎよ活動や被害を軽減するほか、日ごろは市民への防災普及活動も行っています。

近年は人のつながりが希薄になっていますが、有事の際には特に、「互助の精神」が大切です。私たち市民も何ができるかを考えられるよう、今回まちを守る消防の姿を特集します。

■消防署の一 日

- 8:15 災害事案検証会
- 8:30 交替
- 8:35 車両・装備の点検
- 9:00 ミーティング
- 9:30 執務(事務処理・立入検査)
- 12:00 昼食・休憩
- 13:00 執務(事務処理・訓練)
- 17:30 夕食・休憩
- 19:00 車両点検
- 19:15 夜間執務(事務処理・体力錬成)
- 22:00 仮眠(うち2時間勤務)
- 6:00 起床
- 7:00 車両点検・庁舎清掃
- 8:15 災害事案検証会
- 8:30 交替



間で駆けつけ、私たち市民のピンチを救ってくれる、頼りになる存在です。

Q 119番通報の受信場所が笠間市消防本部から水戸市役所内原庁舎内の「いばらき消防指令センター」になつて何が変わつたの？

A 通報は今までと変わりませんが、はじめに「笠間市」と伝えてから所在などをお話しください。例えば救急依頼があつた場合には、管轄外であつても、一番近くにある救急車が現場に向かえるようになります。

笠間市消防本部

市の消防は、笠間市箱田に消防本部を置き、笠間・友部・岩間の各地区に消防署が設置されています。消防署に配備されている部隊は主に、消火活動を中心とする警防隊（ブルーの隊服）、医療処置が行える救急隊（グレーの隊服）、救助隊（オレンジの隊服）です。火事や救急などの通報があった場合には、現場に最短の時間で駆けつけ、私たち市民のピンチを救ってくれる、頼りになる存在です。

Q 救急車を呼んだのに、消防車も一緒にきたのはどうして？

A 救急車の出動が重なつたりした場合などに、状況によって消防車も出動要請されるためです。これを消防ポンプ車(Pumper)と救急車(Ambulance)の頭文字をとつて「PA連携」と呼びます。

消防に聞いてみよう！ Q A

現場の責任者と女性消防士3人にインタビュー

笠間消防署救助隊隊長

山田 健司さん「全員で必ず帰る」
やまだ けんじ

消防の使命は「人を助けること」。現場は常に、負傷者の置かれた状況や環境が違うため、現場へ到着し即座に救出方法を考え、隊員と情報共有をしたうえで救助活動に臨みます。現在の災害は多種多様にわたり、負傷者の事故状況にもよりますが亡くなられた方、また残された家族や友人の涙を見ることが辛く、「もつとこうしておけば……」と自問自答の繰り返です。しかし、反対に命を助けることができた家族の方の笑顔を見たときは、ほっとしこの仕事にやりがいを感じます。以前、助けた子どもの親御さんから「おかげで元気に過ごしています」との手紙をいただいた時には、とても励みを感じました。

普段から一緒に生活し、力を合わせ対応に当たる隊員は全員家族も同然です。だからこそ、危険な現場に行く時はみんなが無事でいられるよう、これまでに培ってきた危険察知とり一ダーシップで隊長としての務めを果たし、一人でも多くの尊い命を助けられるよう努力していることをお伝えします。

消防副士長 綿引 麻美さん(警防)「一人の消防官として」

火災などの際、「一消防官」として現場活動をしたいと思っていながらも「女性だから」と氣を遣われ、悔しい思いをすることもあります。しかし、体力面では男性にはかなわないことはわかっているので、その分、負い目を感じることのないよう知識や技術を習得し、広い視野を持ち、隊長の指揮のもと、その中で自分に何ができるかを冷静に判断し、「すべては市民のため」であることを忘れず活動しています。

消防士 中丸 みなみさん(救急救命士)「無事の報告が何よりのやりがい」

自分が処置をした方が退院して、「おかげさまで元気になつたよ」と言いに来てくださつたことがあります。「苦しんでいる人を最初に助ける存在でありたい」という想いから消防に入つたので、とてもうれしく、この仕事のやりがいを強く感じました。

消防士 川又 小百合さん(救急救命士)「今度こそ自分が助けたい」

自分の進路を決めるときに身内が突然亡くなつたことがきっかけで、命の脆さと自分の無力さを実感し、人の命を救う仕事に就きたいと思うようになりました。

救命士は、現場で最初に傷病者とかかわる、医療の資格をフルに活用できる職業。今後は、現場などで決断を迫られたときにしつかり判断できるよう、勉強会に参加したり、各地の職員と情報交換をしたりして、引き出しを増やしていきたいです。

Q 症状に緊急性がなくても、救急車を呼んでもいいの?

A 救急出動件数が増加すると重症傷病者への対応の遅れが考えられるので、本当に必要とする人のため、適正な利用をお願いします。

▼山田さん



▼レスキューに必要な体力づくり



▼朝の点検の様子



▼(左から)綿引さん、中丸さん、川又さん



▼ロープでの降下訓練



▼心肺蘇生



Q 「救助隊」と「救急隊」は何が違うの?

A 救助隊は、火災や交通事故などの要救助者を受け出す人命救助の専門部隊であり、救急隊は、助け出された要救助者に対し適切な応急処置をし、迅速に医療機関へ搬送す

全国の消防では、職員の交流を図ることや日々の体力作りを進める目的で、各地で駅伝大会が開催されています。笠間市から出場する笠間市消防駅伝部は、これまで数々の大会で好成績を残してきた強豪チーム。平成27年12月には、茨城県消防職員駅伝競争大会で二度目の優勝を飾り、県知事賞を受賞しました。さらに、監督兼選手を務める園部さんは、同大会で区间賞を獲得するなど、チームの成績に大きく貢献しました。

駅伝も日々の仕事も、消防士にとってはチームワークやお互いの信頼関係が重要なものです。業務以外でもそういう絆が育まれていて、熱い「消防魂」を感じます。

Interview

今回で幕を閉じる県大会で優勝をつかめたのは、部員32名全員の日々のがんばりのおかげです。実は、大会に出場した6人のメンバーのうち、陸上経験者は2人しかいません。それでも、「優勝!」という高い目標を持ち、そこに挑み、結果を残すまでにチームが成長できたのは、「やるからには勝ちたい!」という負けん気を部員一人ひとりが持つており、非番のたびに集まって、どこのチームよりも一生懸命練習に励んできたという自信があつたからです。あらためて努力は嘘を

つかず、報われるものだと実感しました。これからも部員全員で楽しみながら、努力を惜しまず練習を重ね、常に上位を目指してがんばっていきたいと考えています。結果を残すことでのPRに貢献できるように走り続けていきたいと思います。



監督兼選手
そのべ よしお
園部 喜夫さん
(岩間消防署)

消防団

消防団は、「地域の防災ボランティア団体」です。消防本部や消防署に勤務する消防職員が専門の職業であるのに対し、消防団員は、各自の仕事に就きながら、自分たちの地域は自分たちで守るという精神に基づき、地域の安全・安心を守るために、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から駆けつけ、活動する「非常勤公務員」です。

火災現場などでも、消防署がスマートに活動できるよう、後方支援という重要な役割を担っています。特に山火事や行方不明者の捜索など、多くの人手が必要なときには大きな力になり、地域にとつてなくてはならない非常に大切な存在です。



▲笠間チャンネル
こちらから平成28年
笠間市消防出初式の動画が見られます。

▼表敬訪問をする優勝メンバー



▼練習風景



▼出場選手



▼平成28年出初式の整列



- 4月・分団長辞令交付式
- ・分団長会議
- 5月 消防団員基礎教育
- 6月・ポンプ操法訓練開始式
- ・夏季訓練
- 10月・ポンプ操法競技大会県央地区大会
- ・分団長会議
- 11月 置場点検
- 12月 秋季訓練
- 1月・消防出初式
- ・文化財防火デー



第1分団
おおえだ てるお
大枝 輝生
分団長

家族に支えられて

今回のポンプ操法大会を通じて、団員間の団結が増強し、若手の団員にとっては、機材などの利用の仕方を学ぶ良い機会となったと思います。団員それぞれが自分はどのような形で活動すべきかを考え行動してくれています。だから、現場においても立ち位置等が明確になり、無駄のない活動ができます。

また、早朝・夜間練習等の際、家族をはじめ多くの皆様が協力してくれたことに心から感謝しています。今後も、災害等が発生しないことが一番ですが、出動要請がかかっただけで、最善を尽くして活動に従事していきたいと思います。

第28分団
えだ とよたか
江田 豊隆
分団長

活動を知ってほしい

火災現場など、以前に比べるとかなり減ってきており、とてもうれしく思います。私は現場対応だけではなく、現場が発生しないように、防災などのPRに力を入れていくことも重要であると思います。地域の方にも、消防団員は誰なのか知ってもらい、顔と顔を合わせた触れ合いをすることにより、地域に密着した活動が展開できると考えています。

これからも、イベント等を通して消防団の実情や連携、団結力を皆さんに知っていただきたいと考えています。

地域に根差して私たちのまちと命を守るために日夜訓練に励み、いざという時に駆けつけてくれる「消防」。

消防署と消防団、それぞれが連携して火災や災害などで対応されていますが、役割が違うことを知っている方は少ないのではないでしょうか？市民のために活動し、安心を与えてくれる消防は、まちの誇りだと思います。

取材をしたことで、日ごろから防災意識をもつて、自分に何ができるのかなど意識を高く持つことが大切だと改めて考える良い機会となりました。

編集後記

女性消防団は、市内の事業所や子どもたちの防災意識を高めるため、広報活動を中心

活動しています。特に平成25年度から実施されている幼児防災教育では、市内の幼稚園や保育所などを訪問し、火事の際に子どもたちが取るべき行動を人形劇や体験を通して、小さな子どもたちにもわかるよう工夫を凝らした教室を実施しています。



▲幼児防災教育の様子

入団は自分を成長させてくれる

消防団に入団して18年になります。一番の財産は、世代の違うたくさんの人と出会えたことです。団員のサポートを受けながら大会に向けた訓練を通して人間関係が構築されたことは、非常に価値があるものだと感じています。消防の活動以外でも、団員同士で気軽に悩みを相談したり、とても有意義に分団活動を行っています。物の考え方や進め方も変わらし、何より人間として成長する。地域に愛される消防団として、使命感、規律、礼節を重んじ、地域の活動にも積極的に参加するなど、地域に根差した消防団活動を開いていくと思います。

第36分団
しばぬま しんいち
柴沼 真一
分団長

地域との連携が大切

現在、分団長2年目で、入団16年目です。団員は10名と少ない人数ですが、なんでも相談し合える人間関係が築けています。このつながりは、自分の人生にとって宝の一つで、仲間には本当に感謝しています。ただ、多くの方に消防団のマイナスイメージが先行していることが残念です。確かに大変なことがあるかもしれません、得られるものもたくさんあることを知ってほしいと思います。

第19分団
わかな みきよ
若菜 美喜雄
分団長

そのためにも、私たちは地域に密着した消防団活動を行って、地元の皆さんと連携していきたいと思います。

「消防女子」も活躍中